

# 南陽中コミスクだより

第3号

発行責任者 CSディレクター

## コミュニティ・スクール(CS)とは



保護者や地域のみなさんの声を学校運営に生かして、地域と一緒に特色ある学校づくりを進めていこうと、「学校運営協議会」を設置している学校のことをコミュニティ・スクールといいます。南陽中学校では令和4年度から導入され、今年で4年目になりました。

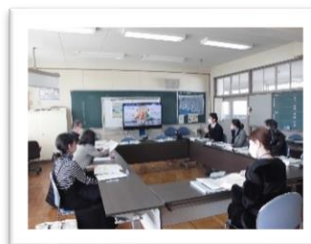
保護者や地域住民が委員となり、学校と意見交換、情報交換を行い、目標・ビジョンを共有して、具体的な支援策を協議・実施します。

地域と学校が連携することで子供の学びの充実を目指します。

第3回学校運営協議会を2月6日(金)に開催しました。協議会の内容を一部ご紹介します。

今回の熟議内容

- (1) 学校関係者評価
- (2) 次年度学校運営の基本方針についての説明
- (3) 学校運営協議会の自己評価
- (4) 夢育やらまいか事業の予算活用の報告



### 学校の現状「学校の様子と生徒の成長」

1年生のスキー研修での様子が校長より報告されました。インストラクターの話を真剣に聞く様子や不慣れな経験に一生懸命取り組む姿から、4月からの大きな成長を実感されたとのこと。これは学校全体で掲げる「互いに切磋琢磨できる生徒」という目標が具現化されている証であり、今後もこの姿勢を継続していく方針です。



### (1) 学校関係者評価の分析と課題



肯定的な評価：「安心して生活できる学校」「悩みを相談できる仲間の存在」といった項目で高い数値が出ており、仲間を信頼できる環境が構築されています。保護者からもいじめのない集団作りや相談のしやすい雰囲気については高評価を得ています。

課題：授業への態度はまじめである一方、家庭学習習慣化が依然として大きな課題です。



改善策：学校での学びを家庭学習に繋げるため、「短時間でも毎日繰り返す学習習慣」の定着を、学校・家庭・地域の三者で協力して支えていく取り組みができたらと考えています。



学習定着の課題について、生徒の約6割が「身につけている」と答えていますが、実態はどうでしょうか？家庭学習をやりたくないのか、やる時間がないのか、生徒の本音が知りたいです。



委員の声



学校より

1年生の国語を例に挙げると、課題提出を「苦しい」と感じている生徒も多いです。部活動の疲れもあり、家庭で「のんびりしたい」という気持ちと「やらねばならない」の思いの間で葛藤している実状があります。



学校より

生徒は「自分なりにやっている」と感じています。保護者から見ると「もっとできるはず」という評価のギャップ（認識の差）がグラフから読み取れます。学年が上がるごとに家庭学習の時間を確保していく姿勢が見られます。

三者面談で「親から見ると遊んでいる時間が多いけれど、本人はやっているつもりで声かけに迷う」と相談しました。今の子は自己肯定感が高いのか「少しやると満足」してしまう傾向があります。やり方を子供同士や先生も交えて意見交換する場があると良いと思います。



委員の声

靴箱の整頓や挨拶など、学校の雰囲気は非常に良いと感じます。評価の数字も80~90%台が多く、先生方の努力が素晴らしいです。



委員の声

子供を見ていると、提出物を「期限までに仕上げよう」という作業として捉え、身につけることより「埋めること」が目的になっていると感じることがあります。



委員の声

## (2) 次年度学校運営の基本方針について



### 重点項目と新たな取り組み

#### 1. 生徒が安心して生活、夢をもち、頑張れる学校づくり（ワンリング南陽）：



多様な特性（発達、人間関係の苦手さ等）をもつ生徒への理解より深め、より具体的な言葉で生徒の成長を認め励ます教育を推進します。

#### 2. 保護者との連携：組織的かつ迅速な初期対応を継続し、信頼関係を深めます。

#### 3. 教職員の資質向上：ICT活用を「当たり前」とし、高圧的にならない適切な言葉遣いを徹底します。



### 「南陽中でしか学べない」教育の構築



- ・学習評価の見直し：不登校や別室登校の生徒に対しても、個別の状況に応じた評価材料（提出物、成果物等）を各教科で吟味し、公平かつ意欲につながる評価基準を確立します
- ・道徳と「当たり前10箇条」の連動：本校独自の「当たり前10箇条」を道徳の重点価値項目と結びつけ、行事や学年の成長段階に合わせた心の教育を推進します。
- ・キャリア教育の充実：外部人材（ゲストティーチャー）の活用や地域行事（大凧作り等）への参加を通じ、地域への愛着と人間形成を促します。



### 部活動の地域展開

令和8年9月休日部活動の地域展開に向け、段階的な保護者説明会や地域クラブ立ち上げ支援を実施します。



学校より

生成AIの利用について学校現場での問題や研修状況はどうでしょうか？

浜松市では秋に教員用タブレットに導入されました。

「AIは嘘をつくこともある」という批判的な視点をもつことが大切です。

生成AIをツールとして活用し、働き方改革につなげたいです。

来年度の研修に盛り込みます。事務作業を効率化し、その分生まれた時間を子供たちと向き合う時間などに充てていきたいです。

評価観点の見直しは素晴らしいですね。評価観点の作成は時間のかかる作業ですが、生成AIを使えば叩き台がすぐにでき、吟味する時間に充てられるのは素晴らしいです。



委員の声



委員の声



委員の声



学校より

大人は経験で情報の真偽を判断できますが、生徒には難しいです。

授業ではどう扱っていますか？

生徒のタブレットには生成AIは入っていませんが、家庭での利用や将来を見据え、情報の真偽を吟味する力を養うことが重要視されています。

2学期に授業でのレポート作成時にあえてタブレットで情報を探させ、正しい情報をピックアップする練習を行いました。



委員の声



学校より



ICTが進む一方で「書く力」の低下が世界的に議論されています。

現場での実感はどうでしょうか？

作文の課題が原稿用紙だと進まない子が、タブレットだと驚くほど入力できます。

書くことへの「面倒くささ」がICTの活用により軽減されているかもしれません。

### (3) 学校運営協議会の自己評価と次年度の目標



#### 協議会の役割と認知度向上

委員による自己評価では、地域との繋がり（大風作りや芳川クリーン作戦等）は、一定の成果を上げているものの、「学校運営協議会（CS）」そのものの理念や活動内容が地域住民に十分に浸透していないという課題が挙げられました。



#### 次年度の目標

1. CS理念の正しい理解：保護者や地域への発信方法を模索します。
2. 学校経営方針に基づく支援：協議会独自の具体的な活動案を出し合い、実践に繋がります。
3. 情報共有の強化：地域住民が学校の現状を知る機会を増やし、協力体制を築きます。

来年度は協議会独自の具体的な手立てを一つでも実践していきたいです。



委員の声

仕事先で「学校運営協議会」と言っても伝わらないです。

まずはこの活動をシンプルに地域へ浸透させることが先決です。



委員の声

取り組みによってどう変化したか、保護者や地域への共有方法を模索したいです。



委員の声



学校運営協議会の自己評価はホームページでも公開されます。

次年度の第一回は5月に予定されており、新体制での具体的な支援策の検討が始まる予定です。

#### (4) 夢育やらまいか事業の予算活用の報告

- ・外部人材の活用：キャリア教育の一環として、高校教師による進路講話の謝礼に充当
- ・地域文化の継承：和太鼓「鼓星」への指導謝礼、大凧づくりの材料費やバス代、謝礼等に予算を活用し、地域と生徒の交流を深めました。



3学期のキャリア教育や、地域との交流活動を紹介します♪

### しおさい学級手作り製品の販売会

2月26日(木)の参観会では、しおさい学級の販売会にお越しいただき、温かな声援とご協力をありがとうございました。生徒たちは、授業の中で心を込めて作った製品の説明や接客に緊張しながらも、一生懸命取り組み、働く喜びと達成感を学ぶことができました。



### 芳川花の会

毎週月曜日、地域の生け花ボランティア6名の方々が、昇降口や、階段、校長室など校内各所に、美しい季節のお花を活けてくださっています。ふとした瞬間に目に飛び込んでくるお花の彩りは、子供たちや教職員の心をホッと和ませ、校内を優しい空気で包み込んでくれます。毎週欠かさず活動して下さる皆様の温かいご支援に、心より感謝申し上げます。

### 地域の方に感謝する会

3月17日(火)本校の体育館にて地域の方に感謝する会を開きます。  
この会は、日頃から生徒の活動や学校環境を温かく支えてくださっている地域の方へ、感謝の気持ちを直接お伝えすることを目的としています。当日は、健全育成会の顧問・会長をお招きし、地域と学校の絆を再確認する大切な機会にしたいと考えています。



令和8年度の学校運営協議会 開催予定  
第1回 令和8年 5月午後  
第2回 令和8年 10月午後  
第3回 令和9年 2月午後

傍聴ご希望の方は事前に学校へご連絡ください。  
当日の会議内容はホームページに公開  
されます。ぜひご覧ください。

